



すずらん

たのしく たくましく

天理市立福住小学校
令和2年9月7日
文責 神元 聡

NO. 5

「自分で考える」力を育む！

二学期の始業式で子どもたちに「自分で考える」という話をしました。私は、先の読めない激動の時代をたくましく生き抜くためには、「自分で考える力」が欠かせないと考えています。例えば、宿題にしても「なぜ、宿題をするのか」を子どもたちには、自分でじっくりと考えてほしいと思います。ただ、出された宿題を言われるままにやり、提出するという無味乾燥な作業をこなしているだけでは、子どもにとってこんなにつまらないことはありません。担任も考えに考えて出している宿題です。宿題をする意味を十分に考えて、理解して日々の宿題に取り組んでほしいと心から願っています。もし、わからなければ、担任とゆっくり納得がいくまで話をしてほしいです。



「自分で考える」といっても、発達段階に応じていろいろな次元があると思います。私が特にしてほしいことは、「今、自分が何をしたいのか」を自分で考えるということです。そして、そのやり方をじっくり考えてほしいのです。「先生に言われたことは出来る。でも、自分のやりたいことは特にない。」では、予測不可能な時代を生き抜くことはできません。なぜなら、だれも先を予測できないので答えがわからず、指示を出すことはできないからです。たとえ、答えを出してくれる人がいたとしても、信用できるかどうか保障はありません。やはり最後は、自分で考える必要があります。

一学期の終わりに、私は子どもたちに「サイではなくゾウになろう！」と呼びかけました。「ゲームをやめなサイ。」と言われてやめるのではなく、「ゲームをやめるゾウ。」と自分で考えて自らの意思で行動していこうということです。

二学期は、コロナ禍とはいえ、行事がたくさん控えています。これらの行事も子どもたちが自分で考え、子どもたちで実施していこうと考えています。失敗しながらも、子どもどうしが関わり合って、「達成感」が味わえる行事にしてほしいと切に願っています。保護者の皆様のご理解とご協力よろしく願います。

世界に目を向ける

8/25にネパールのイプシタさん(10)との交流学习がありました。ネパールについて英語でレクチャーしてもらった後、英語でお話をしました。また、8/26には、アメリカ留学経験をもつ「るなさん(18)」をお招きし、アメリカでの体験記を英語と日本語で話していただきました。これらの体験を通して、英語を学習する意味を理解し、世界に目を向ける福住っこになってくれることを期待しています。